

令和 6 年 5 月現在

プロジェクトの詳細

開 庁	: 令和6年5月7日
人 口	: 約61,000人
対象人員	: 約500人
延べ床面積	: 11,300㎡
建物概要	: 鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 基礎免震構造 地上5階
委託業務	: 八女市新庁舎建設オフィス 環境整備業務委託



窓口

子育て関連の窓口前には、キッズスペースと共に打ち合わせスペースを整備。お子様を見守りながら、諸手続きや窓口相談を受けることが出来る。



窓口

利用者の多い市民部・健康福祉部・会計課窓口を1階に集約配置し、市民の利便性に配慮。



窓口

福祉課窓口前には、対面する相談室利用者も待合で利用できるように、全方向から座れるベンチソファを配置。



オカムラHPでも
ご覧いただけます

令和6年5月、「賑わいを創り 安心して心豊かに暮らせる 郷土(くに)づくりの拠点」を基本理念とした、八女市新庁舎が開庁しました。

新庁舎は、市民が使いやすく人にやさしい庁舎を目指し、市民の利用頻度の高い窓口を低層階に集約、玄関から一目でわかる位置に総合案内や市民窓口を設けました。窓口では、利用者のプライバシーへの配慮や相談内容に合わせ対応できるよう、多様なカウンターのバリエーション(車椅子用ロータイプ・ハイタイプ・ブース型)やセミクローズの相談ブース、個室相談室などが整備されています。また待合スペースでは、立ち上がりしやすい肘付椅子、お子様と一緒に座れるベンチ、キッズスペースなど、多様な待合を構成し、どなたでも心地よく快適に過ごせるよう配慮しました。

加えて、市民協働や交流スペースの充実も注目を集めるポイントとなっています。1階には、休憩や談話に利用できる「まちの茶屋」、市政情報や市のイベントを発信する「情報の町家」、まちづくり団体が会議・活動に利用できる「市民協働会議室」等の市民開放エリアを設けました。市民が手続き以外にも気軽に市役所を訪れ、利用できる空間を整備することで、幅広い世代の市民が憩い集い、まちの賑わいを創出しています。



窓口カウンター

座って手続きができ、下肢空間が広い車椅子用ローカウンター(キックガード付)を基本とし、プライバシーに配慮したセグメントパネルやブースカウンターを整備。



窓口

利用者のプライバシーへの配慮や相談内容に合わせ、各種カウンター(ロー・ハイ・ブース型)セミクローズの相談ブースや個室相談室などを整備。



待合ロビー

待合椅子は、メンテナンス性に優れたビニールレザー仕様。立ち上がり易い肘付、お子様連れなども利用しやすいベンチタイプなど、さまざまなバリエーションを整備。



執務室

課長席を含めたユニバーサルレイアウトを採用し、異動時にはワゴンと手荷物の移動のみとし、ランニングコストの削減につなげる。



一般職席

一人当たりW1200D600の机上面にA4ワゴン1台、肘なしチェアで構成。



マグネットスペース

複合機や文房具保管を集約し、職員が共用することで偶発的なコミュニケーションが生まれる。収納庫上部は作業スペースや短時間での打ち合わせスペースとしても活用。



集中ブース

吸音効果のあるパネルにより、音や周囲の視線を遮ることができ、個人の集中作業やWEBミーティングなどに活用。



モニタースタンド・OCバッテリー

持ち運びができるモバイルバッテリー(DX推進室管理、職員貸し出し用36台)は、スマートフォン・PCだけでなく、専用のモニタースタンドへの給電も可能。キャスター付きのモニタースタンドは移動することができ、どこでもパーペラスの打ち合わせが可能。



まちの茶屋

誰もが気軽に利用できるくつろぎのスペース。一部には八女市産木材(旧市役所敷地内の樹木を含む)を活用し、グループ席や窓面カウンター席など豊富なバリエーションの席を設置。



多目的室

一体利用も可能な多目的室を2室設置しており、期日前投票や避難所の設置等、様々な用途に利用。



情報の町屋

八女市の魅力や行政情報発等を発信する情報コーナー。吹き抜けには、八女の伝統工芸の技術が活かされた漆塗りと提灯の照明を間近に見ることが出来る。



301・302・303会議室

災害時には各会議室を仕切る可動式の壁を収納して一部屋にでき、災害対策本部として機能転換することが可能。